

下関市立大学における教学マネジメントの基本方針

2025年8月7日

学 長 裁 定

下関市立大学（以下「本学」という。）は、3つの理念「未来社会の創造」、「地域社会との共創」、「国際社会との共創」を掲げている。この3つの理念にもとづいて行われる本学の教育と研究は、「総合的な知識と専門的な学術を教授研究するとともに、地域に根ざし、世界を目指す教育と研究を通じ有為な人材を育成することにより、地域社会及び国際社会の発展に寄与する」という目的の達成を目指している。この目的の達成のために、本学は、教学マネジメント（大学がその教育目的を達成するために行う管理運営）の基本方針を以下のとおり定める。

1. 教育内容の改革

- (1) 卒業認定、学位授与方針（ディプロマポリシー）、教育課程の編成・実施方針（カリキュラムポリシー）、入学者受け入れ方針（アドミッションポリシー）を一貫性・整合性のあるものとして定め、社会に求められる人材を育成するための教育を行う。
- (2) 卒業認定、学位授与方針（ディプロマポリシー）に基づく教育課程の編成・実施方針（カリキュラムポリシー）に沿って、各学位プログラムで獲得すべき能力に相応しい授業科目が適切な形態（講義、演習、実習等）により配置されているか、育成すべき人材像と獲得すべき能力に相応しい授業科目が過不足なく設定されているか、年次進行に基づく履修の体系性が図られているか、成績評価及び単位認定並びに学位授与が適切になされているか、学修成果が適切に把握・評価されているか等について不断に点検・評価のうえ改革を行う。

学修者本位の教育を実現するため、学生に対し、授業科目の系統的な履修のためのガイドとなるように、履修系統図（カリキュラムツリー）やカリキュラムマップを提示するとともに、本学が授業科目を点検する際のツールとしても活用する。

- (3) 社会経済情勢の変化や学問領域の新展開さらには学生の学修成果や履修状況の変化を踏まえて、授業内容・方法、カリキュラムを不断に見直し、社会の要請に応える。

2. 教育方法の改善

- (1) 大学全体、学位プログラムレベル、各授業科目のそれぞれのレベルにおいて点検・評価を行い、授業方法における課題や問題点を洗い出した上で、各授業形態（講義、演習、実習）に相応しい授業方法の改善を行う。
- (2) シラバスの充実と有効活用を図る。また、記載内容や記載項目・形式を定期的に点検し、必要に応じて改良することによって、授業方法の具体的な改善を実現する。

- (3) 厳格で公平な成績評価に基づき適切な成績管理を行い、学生一人一人が自らの学修成果を自覚できるよう、多数の指標による学修成果を的確に把握・可視化する。そこから得られた情報をもとに点検・評価を行い、授業内容と授業方法の改善につなげる。

3. 教育実施体制の確立

- (1) 客観的なデータを根拠として教育内容の改革を行うために、学生の学修成果、授業評価、卒業時アンケート等、教育活動に伴う基本的な情報を収集・分析する教学 I R 実施の体制を整備し、推進する。
- (2) 学生の適正かつ効果的な学修を支える観点から、学生支援の体制を整備し、学生支援を適切に行う。あわせて、学生支援の適切性について定期的に点検・評価し、学生支援体制の改善・向上に取り組む。

4. 教職員の資質能力向上

- (1) 卒業認定、学位授与方針（ディプロマポリシー）に沿って学修者本位の教育を提供する観点から本学の求める教員像を定め、それを実現するための教育力、研究力を向上させるための F D を組織的かつ体系的に実施する。
- (2) 国や地域レベルにおける高等教育政策の展開を的確に把握し、大学戦略に適切に活かしていく観点から、研修会や講演会の実施等による S D を組織的かつ体系的に行う。
- (3) 教学マネジメントを適切に実行していくために、教学 I R の推進に向けた人材育成を進める。

5. 教学マネジメント推進体制

- (1) 学長のリーダーシップのもとに教学マネジメント会議を設置して教学マネジメントを確立し、内部質保証システムを構築する。
- (2) 教学マネジメント会議は、経営戦略・点検評価会議と連携しながら、全学レベル、学位プログラムレベル、授業科目レベルの三層において P D C A サイクルを効果的に回していく。
- (3) 内部質保証システムのもとで収集された本学の教育に関する基本情報を、学生や学費負担者、広く社会一般に適切な形で公表する。